

# 「人権を大切にする心を育てる保育の実践」 (3) ～幼児教育と小学校教育との連携・接続を中心に～

奈良県人権保育研究会 大寺 和男

乳幼児期、特に幼児期における「子ども観」あなたは、どちらの立場にたちますか？  
(A) 学校に入るための準備の時代という見方  
(B) 人生の出発の時として、子どもにとって最も大切な時代という見方

同和保育は、長年の経験則に基づいて「乳幼児期の保育」がその子の将来にわたって影響をおよぼすことを認識してきました。そして、「0歳からの教育としての保育」の必要性や乳幼児教育は、すべての子どもたちに保障されなければならないとして「皆保育の原則」を主張してきました。

## Starting Strong

高校・大学期

小学校中学年期～中学校期

幼児期～小学校低学年

乳児期

「入口から出口」を見る「子ども観」

### 「人権保育の創造に向けての視点」を検討中です。

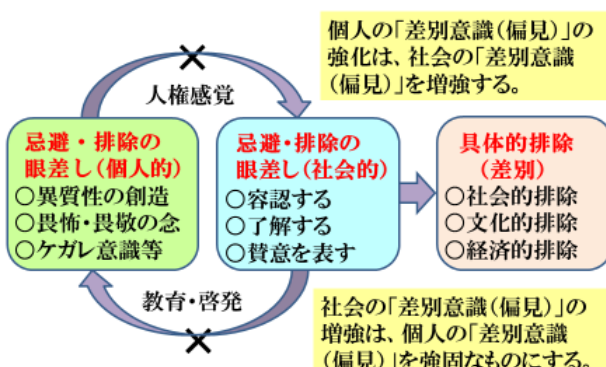
これまで、同和保育を進めていくための拠り所として「同和保育の4指標6原則」を位置付けてきました。しかしながら、この「4指標6原則」が設定されて40年近くになりました。この間、乳幼児教育に関する保育・教育学、心理学(発達・臨床・社会)、社会学、経済学、脳科学等々の研究における進展があり、それぞれの立場から乳幼児教育への提言がなされてきました。

こうした新たな知見を人権保育の実践に反映していく必要があります。「4指標6原則」が設定された歴史的経緯や理念を継承しながら、人権保育のさらなる深化をはかるため「人権保育の創造に向けての8つの視点」を検討しています。

### 人権保育の8つの視点(試案)

1. 差別の現実(子どもの姿)から学ぶ。
2. 「子どもの権利条約」の理念を具体化する。
3. 「人権感覚の育成」を保育の基盤に据える。
4. 「保育の質」の向上をはかる。
5. 自律と自尊感情を育てる。
6. 健康でしなやかなからだを育てる。
7. 遊びと表現を重視する。
8. 乳幼児教育と小学校教育との接続・連携を強化する。

### 1. 「人権感覚の育成」を保育実践の基盤にすえましょう。



### 「差別意識(偏見)」の出発は「ちがひ」です。

「ちがひ」として避ける意識  
+  
相手を「見下す」意識

#### 「否定的「偏見」」の5段階

1. 誹謗(ひぼう)
2. 回避(かいひ)
3. 隔離(かくり)
4. 身体的攻撃
5. ジェノサイド



G・W・オルポート

差別する側にとって被差別者は自分たちとは違う存在である。この場合、「違う」という認知が差別意識の出発点である場合もあれば、明確な、あるいははっきりした理由で、ある人たちが差別の対象となっていることの認識から出発して、そのことが「違うはずだ、という意識をまねき寄せる場合もある。・・・以下略・・・

(『差別の心的世界』 山下恒男 現代書館)

「ある人たちが差別の対象となっていることの認識から出発して、そのことが「違う」はずだ、という意識をまねき寄せる場合もある。」（具体例）

【史料】一九一五年（大正四）「奈良県風俗誌」（県立図書情報館所蔵）

①「曾爾村風俗誌資料」  
部落ニ対スル自他ノ感想  
一般人民ハ何トナク異ナレルガ如キ感ヲ有シ、部落民ハ多少謙遜シツ、アルガ如シ

②「上牧村他風俗誌資料」  
部落ニ対スル自他ノ感想  
一般民ハ今モ尚部落民ヲ嫌忌シ、コレト交ルヲ厭フ風アリ、其ハ卑ニ習慣上何カナシニ嫌フト（下略）

## 「差別の現実」から学ぶために、私たちは何をすればいいのでしょうか？

(1) さまざまな人権侵害を受けている人たちが現実存在しているという事実を、社会の現実として率直に受けとめましょう。(現実認識)

○部落差別の解消 ○女性の人権 ○子どもの人権 ○高齢者の人権 ○障害のある人の人権 ○生活困窮にある人の人権 ○引きこもり状態にある人の人権 ○性的マイノリティの人権 ○ハンセン病患者等の人権 ○刑を終えて出所した人の人権 ○犯罪被害者等の人権 ○アイヌの人々の人権 ○外国人の人権 ○拉致被害者等の人権 ○インターネットによる人権侵害 ○ハラスメントに関する人権 ○災害時における人権

「奈良県人権施策に関する基本計画」(2020〔令和2〕年3月改定)より

(2) 排除や差別につながる「差別意識（偏見）」は、誰もが持ってしまう「意識」です。私たち一人一人も、差別をする主体になっていく可能性が十分にあることを理解しましょう。(自己認識)

社会から差別をなくそうという長年の取り組みにもかかわらず、現在においても依然として差別に苦しむ人たちは存在する。本稿では、この問題に関わる社会心理学の理論や研究パラダイムの変遷を追いながら、なぜ事態が改善しないのかを考察する。その一つの理由として、差別的行動や偏見にもとづく思考は、人間が環境への適応のために獲得した正常な心理機能に根ざしていること、その機能はわれわれの意識を超えた形で働くため、これを統制することがきわめて困難である点を指摘する。…以下略…

池上 知子「差別・偏見研究の変遷と新たな展開」要約より

(3) 乳幼児であるからといって「差別意識（偏見）」と無縁ではありません。

子どもは、3歳、遅くとも4歳までに、人間に対する肯定的あるいは否定的な社会のメッセージを吸収している。例えば、白人の乳児は、早ければ6ヶ月頃から肌の色の違いに気づき始めており、3歳頃までに肌の色への社会的偏見を吸収し、白い肌には肯定的に、黒い肌には否定的に反応するようになる。(L. ダーマン・スパークス1989/1994)



(4) 持ってしまった（持ってしまうかもしれない）「差別意識（偏見）」に気づき、正していける力を身につけ、差別に支配されることの無意味さを自分の力で納得していく努力を積み重ねていくことが大切です。(自己変革)

持ってしまった（持ってしまうかもしれない）「差別意識（偏見）」に気づき、是正する「力」を「人権感覚」といいます。「人権感覚」を豊かなものにしていくためには、

- ①人権問題に対する「知識」が必用です。
- ②間違いを是正するためには、人権問題に対する「認識」が必用です。

13歳の女子中学生。人間関係における「差別」で悩んでいます。  
私は、ある女子のことが苦手です。彼女は周りの人からもあまり好かれていません。ケンカをして泣いたり、係の仕事をしなかつたりすることがあるからです。  
私は、あからさまに彼女に嫌がらせをしたり、悪口を言ったりしませんが、なるべく関わらないようにしています。たまに、どうしても話さない時が

## つい差別してしまう13歳

あつて、彼女に話しかけられなくても無視してしまうことがありますが（無視するというのは、嫌がらせと同じかもしれない）。  
「差別はダメだ」と思っていて、心の中で自分に言い聞かせているのですが、なかなか直りません。  
私は彼女と仲よくなりたいたいのではなく、「他の人と同じように差別しないで接したいのです。でも、どうしたらよいかわかりません。」（千葉・W子）



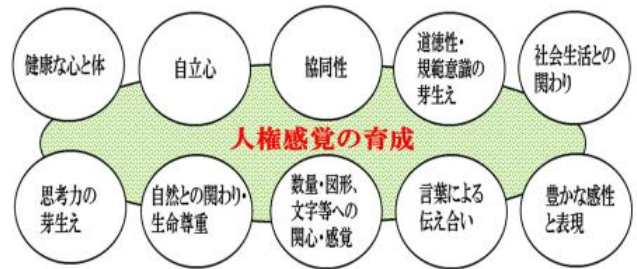
## 人権感覚の土台作りは2～9歳が重要期

乳幼児期の子どもたちは、感性を通してまわりの世界と関わりを持ちます。人権感覚の土台を涵養するのに最もふさわしい時期であるということを認識しなければなりません。

2歳から9歳までの時期は、健康な自己概念や偏見のない態度を作っていくうえで発達的に危険な時期なのです。その後には、多様な人々を承認し、尊敬し、気持ちよく付き合うことを教えるのはより難しくなるのです。

言いかえると、保育実践の基盤に「人権感覚の育成」を位置づける必要があるということになります。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」の基盤に「人権感覚の育成」を位置づけましょう。



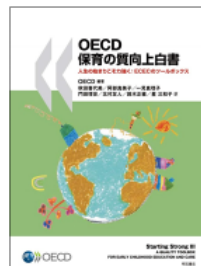
(文部科学省「幼児教育部会における審議のとりまとめ」2016年8月26日)より

## 2. 「保育の質」を向上させましょう。

乳幼児保育・教育は、社会に対して多くの恩恵をもたらしています。また、子どもの未来を規定する大切な保育・教育でもあるという認識を持ちましょう。

保育は、社会に対して幅広い恩恵をもたらしている。

- ・子どものより良い福祉
- ・生涯学習の基盤としての学び
- ・貧困の削減
- ・女性の就業保障
- ・出生率の増加
- ・社会、経済的発展



OECD保育白書(2012年)

## しかし

この恩恵は「保育の“質”次第」であり「質への関心なしの保育サービスへのアクセスの拡充は、子どものよい育ち、あるいは長期的な社会にとっての生産的利益をもたらさないであろう」そして、「質の低い保育は、子どもにいい影響をもたらす代わりに、長い間有害な影響を与え続けることになることがこれまでの研究によって明らかにされている」とも記されています。

保育による投資で得られる恩恵は数多くあるが、その恩恵はすべて「保育の質」にあるとする『白書』をうけて、今、「保育の質」への関心が国際的に注目されてきています。

## 「保育の質」とは？

厚労省の検討会の「議論のとりまとめ」では、「保育の質は、子どもが得られる経験の豊かさと、それを支える保育の実践や人的・物的な環境など、多層的で多彩な要素により成り立つ」と述べられています。そして、「遊びの重視」「一人一人に応じた関わりや配慮」「子ども相互の育ち合い」等が、わが国の保育の質の特色であることが明記されました。

- ① 保育内容の質  
(保育実践。子どもと保育者の関係。保育環境等)
- ② 保育条件の質  
(クラスの子どもの人数、保育者の配置基準、保育者の専門性・経験年数、等)
- ③ 保育労働の質  
(給与、仕事に対する充実感、ゆとり、研修等)

## (1)ペリー就学前計画(Perry Preschool Project)

OECDの動向の背景には、乳幼児期の保育の質がその後の子どもたちの成長に大きな影響を及ぼすとい



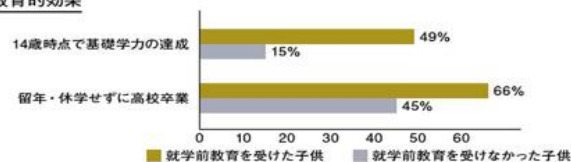
う追跡調査の結果を受けてのものです。特に、アメリカ・ミシガン州で1962年から1967年にかけて実施された「ペリー就学前計画(Perry Preschool Project)」が大きな根拠となっているようです。

「ペリー就学前計画」では、低所得層のアフリカ系アメリカ人の3歳から4歳の子ども123名をランダムに実験群と対照群に分け、実験群には、2年間(10月～5月)にわたって、「**ハイスコープカリキュラム**」による教育を行いました。平日の午前中は、教師1人に対して6人のクラスで2時間半の教育を受け、教師は1週間に1度1時間半の家庭訪問と月1回の親を対象とした少人数グループミーティングをおこないました。

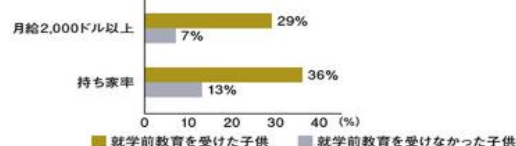
その後、**11歳までは毎年、14・15・19・27・40歳時点での追跡調査**を行っています。

●ペリー就学前プロジェクトの効果[表1]

#### 教育的効果



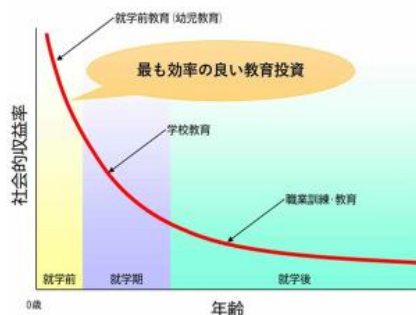
#### 40歳時点での経済効果



出典：『幼児教育の経済学』（ジェームズ・J・ヘックマン 著、大竹 文雄 解説、古草 秀子 訳／東洋経済新報社）

ペリー就学前計画の調査では、質の高い幼児教育によって子どもたちの人生が好転することで、後に起こりうる社会問題の対応に使われる費用の減少、成人後の収入増による税収増加などが見込めることが明らかになりました。

検証に携わったノーベル経済学賞を受賞した経済学者のジェームズ・ヘックマンは、幼児教育のプログラムの費用1ドルにつき7.16ドルのリターンがあると分析結果を出しています。



## (2)「非認知能力」は幼児教育のキーワード

生きていく上で必要なのは、学力だけではありません。

人生を成功させる能力を身につけるには就学前教育が最も重要なのです。非認知能力はやる気を促し、人生の可能性を広げる極めて大切な能力なのです。「非認知能力」が身につけば、不利な状況に打ち勝ち、貧困の連鎖から抜け出すことができます。



出典：経済学者ジェームズ・ヘックマン教授談

### 「非認知能力」とは？

IQや学校のテストのように数値化できる認知能力に対し、「非認知能力」とは、目に見えない感情や心の働きといったような、数値化しにくい分野の能力のことをいい、**社会情動的スキル**ともいわれています。

幼児期に培う「非認知能力」は**小学校以降の主体的な学びの土台として重要な位置付け**をされてきています。

「非認知能力」を育む観点からの保育内容の充実を考えていくことが大切になります。



| 非認知能力の名前   | 具体的な非認知能力                           |
|------------|-------------------------------------|
| 自己認識       | やり抜く力 自分の能力を信じる <b>自己肯定感</b> がある    |
| 動機づけ・意欲    | <b>学習指向</b> やる気がある 集中力              |
| 持続力・忍耐力    | あきらめない ねばり強い                        |
| 自制心        | <b>自分のルールを守れる</b> 自制心がある 勤勉         |
| メタ認識       | 目標を決めて計画を立て、問題を把握・解決しながら前に進められる 客観性 |
| 社会的能力      | リーダーシップ 他の人と <b>対話・協調性</b>          |
| 回復力・対応力    | 楽天的 失敗しても悩まない 失敗から学ぶ                |
| クリエイティビティー | <b>創造力</b> ・直観力がある <b>工夫</b> ができる   |

2018年度より、改定された保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領による保育・教育がおこなわれています。

今回の改定にあたって、各施設が重視することとして次の4点をあげています。

- ①基本原則は「環境を通して行う」ものであること。
- ②生きる力の基礎を育むため、**資質・能力**を育むこと。
- ③「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を明確にして取り組むこと。
- ④**小学校教育との接続をより円滑にすること。**

### 3. 今、「接続」の必要性が求められるのは？

近年、幼児教育と小学校教育との接続・連携が注視されています。背景には、子どもたちを取り巻く社会環境の激変に伴うさまざまな問題がありますが、特に、小学校入学後、学習に集中できない、望ましい人間関係が築けないなど、小学校生活にうまく適応できない

子どもの増加、いわゆる「**小1プロブレム**」といわれる状況の出現が大きな要因であるといえます。



#### 「小1プロブレム」が出現するまでの経過は？

1989年 幼稚園教育要領改訂  
1990年 保育所保育指針改訂 領域を6領域から5領域へ

子どもの主体性を重視し、あそびを通した総合的指導を重視。教師・保育士は支援者



このことが、マスコミなどでは「自由保育」として取り上げられた。

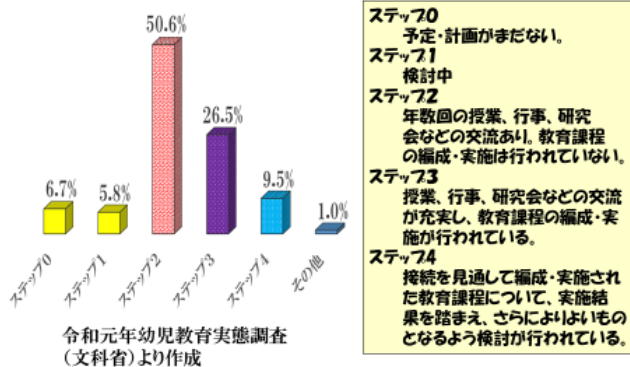
1990年代後半期 「小1プロブレム」の出現  
(1997年にはマスコミ等で大きく取り上げられ小1プロブレムと呼ばれるようになった。)  
1998年 小学校学習指導要領改訂  
生活科の発展として「総合的な学習の時間」創設

1998年 幼稚園教育要領改訂 教師・保育士の役割を強調  
1999年 保育所保育指針改訂 計画的な保育の設定

幼児教育においては、1989年から子どもたちの自主的な「あそび」を重視し、「あそび」への意欲をかきたてる環境設定など小学校における「生活科」や後の「総合的な学習の時間」につながる保育がおこなわれていました。小学校教育が、本格的にこうしたスタンスにシフトするのは2000年に入ってからのことになります。

「変わる幼児教育」と「変わらない小学校教育」の間にあった10年間のギャップが、子どもたちに影響を与えないはずがありません。

#### (1) 市町村における幼小連携・接続の状況



#### 「保育所保育指針」では

##### 第2章 保育の内容

- 4 保育の実施に関して留意すべき事項 (2) 小学校との連携  
イ 保育所保育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校教師との意見交換や合同の研究の機会を設け、第1章の4の(2)に示す「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」を共有するなど連携を図り、**保育所保育と小学校教育との円滑な接続**を図るよう努めること。

#### 「小学校学習指導要領」では

##### 第1章 総則

##### 第2 教育課程の編成 4. 学校段階等間の接続

- (1) **幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導**を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく**幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえた教育活動を実施し**、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。…(略)…



## (2) 「小学校教育との接続をより円滑にすること」にかかわって

2017年にOECDは、保育白書『Starting Strong2017』を公表しています。この白書の中で、子どもの小学校移行を特集しています。そこでは、「**学校への準備**」概念の再検討がなされています。

従来は、学校への準備としての「子どもに必要な準備」が論じられてきましたが、こうした「子どもに就学の準備をさせる」という考えを改め、学校が子どもの受け入れの準備をする必要があり、「**小学校に改革が要求されている**」と指摘しています。

変わらなければならないのは、ハードルの高いほうです。

## 幼児教育と小学校教育の特徴

|            | 保・幼・こども園   | 学 校         |
|------------|------------|-------------|
| 活動場面の軸     | 空間が主体の活動   | 時間が主体の活動    |
| 使われる「言葉」   | 「話し言葉」中心   | 「書き言葉」中心    |
| 子どもと指導者の関係 | 個人中心の対応が多い | 集団中心の対応が多い  |
| 年齢への配慮     | 年齢（月齢）に配慮  | 年齢はあまり配慮しない |
| 子どもへの働きかけ  | 支援＞指示      | 支援＜指示       |

頼れる「年長さん」だったのに・・・

チャイムで区切られた時間で行動するんだ

前を向いてずっと同じ席についている子どもの姿に感動

長い説明を聞く力が必要なんだ



## 活動場面の軸

◆ 学校では、**時間を中心**にした行動様式になります。授業はもちろんですが、そうじ、給食などいわば「**時間との闘い**」を強いられます。子どもたちは、自分のペースと違う活動に**順応**しなければなりません。

エピソードある連絡会で・・・  
保育園の先生から、給食の時間は友だちとおしゃべりをしながら楽しく食べるということを知り、小学校の先生方は大変驚きました。小学校では、時間内に食べることや、食べるときのマナー、好き嫌いをなくバランスよく食べることが重視されています。

給食の時間では、友だちとのかかわりを大切にしています。

1年生の子どもたちは、給食の時間に戸惑っているかもしれない、緊張して食べているかもしれない、……

自分の目でそれぞれの現場の教育活動を見ましょう。互いが具体的な子どもの姿で率直に伝え合いましょう。

## 使われる言葉（話し言葉・書き言葉）

◆ 日本語の特徴として、「話し言葉」と「書き言葉」とではまったく**異質な言語様式**を持っているということです。「話し言葉」は、ある程度文法を無視しても意味が通じるという性質があり、「書き言葉」は、文法を無視すれば意味が通じないということです。

書き言葉とはもともと、話し言葉をもとに成立するもので、その過程には**文字**と云うものが介在する。（略）ところで日本人はこの文字の体系を、中国の漢字をもとに作り上げた。しかも表音文字ではなく表意文字である漢字をもとにして、日本の書き言葉の体系を作り上げたことから、世界に例を見ないユニークな言語の体系ができあがった。（略）そのユニークさのなかでも**横網格ともいえるものは、書き言葉の話し言葉からの遊離**ということだろう。書き言葉の話し言葉からの遊離は、どの言語にも、多かれ少なかれ見られるものだが、**日本語の場合には特に甚だしい**。

学校教育は教科書に代表されるよう「**書き言葉**」中心の**世界**です。文法に則した日本語の訓練を十分に受けていない子どもにとって、学校場面は、もしかしたら異次元の世界かもしれません。

幼児期における「絵本の読み聞かせ」が大切であるとされます。それは、子どもに**豊かな感性や想像力**などを培うとともに「書き言葉」の日本語を読むという過程、すなわち「話し言葉」に翻訳して子どもに聞かせていることを通し、「書き言葉」への移行をスムーズにするための大切な手段でもあるからです。



### 「絵本の読み聞かせ」その効果

脳科学の知見では、子どもが字を読めるようになるのは、**5～7歳の時期**であるとされています。

2歳から5歳までの子どもは、新しい言語を1日平均2～4語覚えると言われています。**平均的な5歳児が獲得する語彙数は1万語前後**ですが、その主な獲得源のひとつが「読み聞かせ」から覚えた単語といわれています。幼児は識字能力を持たなくても、「読み聞かせ」から**語彙を増やす**ことができるのです。

識字能力発達のキーは、脳内で生成される**ミエリン**という物質で、その量は、5～7歳になるまで十分にならないとされています。5～7歳になるまでは、「読み聞かせ」が子どもの読解力発達の手助けをします。

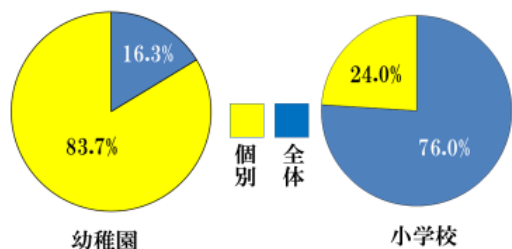
子どもの読解力は、生まれて後、5～7年間に読み聞かせの機会がどれだけあったか、なかったかによって左右されると言われています。

子どもが識字能力を獲得する前に「読み聞かせ」を行うことで、識字能力獲得後の**読解力の発達**に大きな影響を与える可能性があるのです。



### 子どもと指導者との関係

幼稚園と小学校における教師からの働きかけについての全体と個別の割合



「就学時の環境変化についての直接観察によるアセスメント」  
近畿大学・教育相談センター紀要 第2巻(2017)

### 年齢（月齢）への配慮

- ◆ 小学校1年生の段階で、すでに学力差が歴然としているということが言われます。考えてみれば、当然のことだと思うのです。最大で、**1年近く**の「育ち」の差を持つ子どもたちが、4月2日付けで、小学校ではすべて「1年生」としてあつかわれ、1年間で決められた教育内容を理解しなければならぬのです。この年代の子どもの1年近い「育ちの差」は、とても大きなものです。



A小学校では、新1年生への取り組みとして、幼稚園や保育所の指導を参考にしながら、学校教育を行う上での基本的な生活・学習スキルをトレーニングするため1か月の指導プランを作成しています。

4月の1か月間、**生まれ月をもとに仮のクラス編成**をおこない、学年担当の教師全員で子どもの指導にあたる**学年団担任制**を導入しています。どの時間も教育ボランティア(1年生以外の子どもの保護者や学生、地域の人)が二人ずつ配置できるようにしています。

### 「接続期のカリキュラム」作成の留意点

1. 「保育の文化」と「教育の文化」との間の壁を双方から壊す作業が必要です。

(例) 「一人ひとりを守る」

遊び = 学び

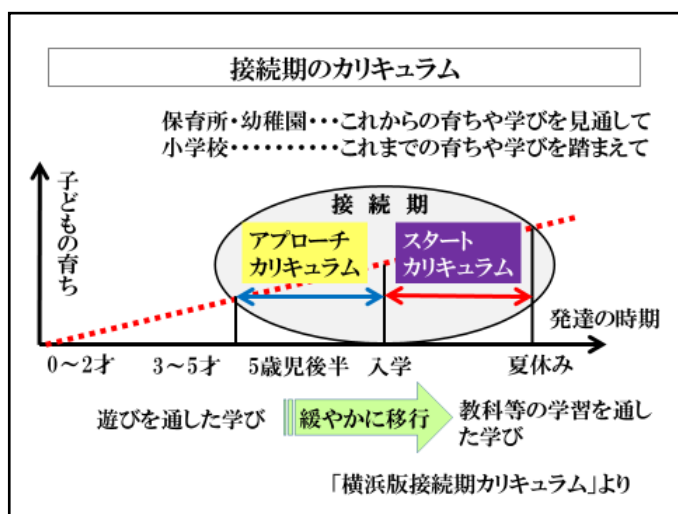


「一人ひとりを大切に」

遊び ≠ 学び

2. 保育所保育の内容と小学校教育の内容、互いの指導方法の違いや共通点について理解を深めることが大切です。

小学校の先生が、幼稚園・保育所での子どもの姿を見ていなかったら、いくら「100の姿」を手がかりとして話をしても、受け取り方は違います。



「くぐらせ期」の実践をスタートカリキュラムの参考に

1970年代に同和教育の実践から生まれてきた小学校1年生の指導法です。小学校入学までにくぐっておかなければならない体験や身につけたいスキルを獲得できないまま入学してくる子どもたちに、遊びと学びを組み合わせながら、子どもたちに必要な体験や知的活動をくぐらせる取り組みです。

近年は小1プロブレムの予防が課題となり、人間関係スキルや感情のコントロールなども加味した実践が進められています。



長時間、ご清聴  
ありがとうございました。

